

各 位

会 社 名 株式会社 安 永
代表者名 代表取締役社長 安永 暁俊
(コード番号 7 2 7 1 大証 市場第 2 部)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 浅井 裕久
TEL 0 5 9 5 - 2 4 - 2 1 2 2

第 3 次中期経営計画について
(2011 年度～2013 年度)
～『グローバルニッチNo.1』を目指して～

当社グループは、既に 4 月より基本戦略、事業戦略に於いて取り組みをスタートしておりますが、2011 年度から 2013 年度までの第 3 次中期経営計画（3 ヶ年）については、震災の影響等で自動車メーカー各社の生産動向に不透明感があつたため、数値目標の公表を差し控えておりました。

この度、今後の市場動向、当社業績に想定される影響を考慮し、数値目標を策定しましたのでお知らせいたします。

記

新たな成長を目指した第 1 次中期経営計画（2005 年度～2007 年度）では、業績目標を概ね達成できましたが、第 2 次計画（2008 年度～2010 年度）では、2008 年秋に起こった所謂リーマンショックの影響で世界の自動車需要が急速に縮小する中、同中期計画は断念を余儀なくされました。

その後、世界の自動車業界では中国を筆頭に新興国が好調を維持する中、2010 年度は赤字から脱却することができました。

今年度から始まる第 3 次中期経営計画では、地域、顧客、製品での「グローバルニッチNo.1」を目指し、基本戦略の中核に据えて取り組んでまいります。

従来より、大きな市場に挟まれた小さなすき間（ニッチ）市場を開拓し、その中で独自（ユニーク）技術を育ててトップ企業を目指してきました。今後も、グローバル展開を進めるとともに、当社の強みを活かして、より強固な地位を目指してまいります。ニッチ市場でトップになることで、顧客と近くなり協業関係を育みながら、顧客の問題解決をより一層進めたいと考えております。

I. 基本戦略

お客様に信頼される技術・製品・サービスを創造し、高い付加価値を提供し続ける企業を目指し、以下の 3 つの項目を重点施策として取り組んでいきます。そのための基盤とすべく職場の環境づくりとして、現場での活発な議論と個々人が積極的にチャレンジしていく企業風土を作り上げ、環境変化の早い時代に対応した人材育成に努め、活力ある職場を目指していきます。

① 「グローバルニッチNo.1」

得意分野への一段の集中により、成長・収益・価値のバランスの取れた事業戦略を押し進め、地域、顧客、製品での「グローバルニッチNo.1」を積み重ね、企業価値の向上を果たす。

国内市場が成熟する中、新興国市場の成長性を考え、海外生産拠点である中国、韓国、インドネシアのさらなる拡充を目指す。

② 「新事業の創出」

本年 4 月から新設した R & D 本部主導により、既存事業以外の新しい事業創出のための研究開発を強力に推進する。

③ 「財務体質の強化」

第 1 次、第 2 次中期経営計画と同様に、引き続き「自己資本比率」と「ROE」の向上に取り組んでいく。

II. 事業戦略

【エンジン部品事業】

当社の主力である同事業は、メーカーからのオーバーフロー品やフェードアウト品という「ニッチ市場」での実績を積み重ね、量産市場で独自の地位を築いてきました。

これまでの戦略製品（コネクティングロッド、シリンダーヘッド、シリンダーブロック）にカムシャフトとクランクシャフトを加えた5C部品を新たな戦略製品と位置づけ、受注活動に取り組んでいきます。

国内の生産規模を維持しつつ、新興国での市場拡大に対応した体制づくりとして、インドネシア工場の拡大に加え、新たに韓国内でエンジン部品の生産を行います。

同事業は、収益性を維持しつつ事業拡大を図り、独立系自動車部品メーカーとしての地位を確固たるものとすることを目指します。

【機械装置事業】

独創的なコア技術で、ニーズを先取りしたモノづくり技術を創出し、安定的な利益が確保できる事業を目指して取り組んでいきます。

工作機械は、コネクティングロッド、軸物（カムシャフト、クランクシャフト）加工専用設備に特化した営業活動に注力します。中国では昨年10月に設立した山東安永精密機械有限公司を活用し、中国国内での営業活動を強化、設計、製造活動を軌道に乗せ、中国市場への拡大を狙います。

太陽電池関連事業は今後も成長が期待できる市場であるものの、市場環境は、欧州での金融不安や、中国の金融引き締めの影響で不透明な状況であります。しかし、ワイヤソーでは最先端の固定砥粒技術でスライス工程のコストダウンを提案し、ワイヤソーの技術力とブランド力を確立していきます。また、ウエハー加工一貫ライン（ワイヤソー、洗浄機、セパレータ、検査装置）の拡販をグローバルに展開していきます。

【環境機器事業ほか】

「浄化槽用エアポンプ」「燃料電池用エアポンプ」「ディスポーザ」の3本柱で業界No.1の地位を確立し、環境分野で社会に貢献していきます。

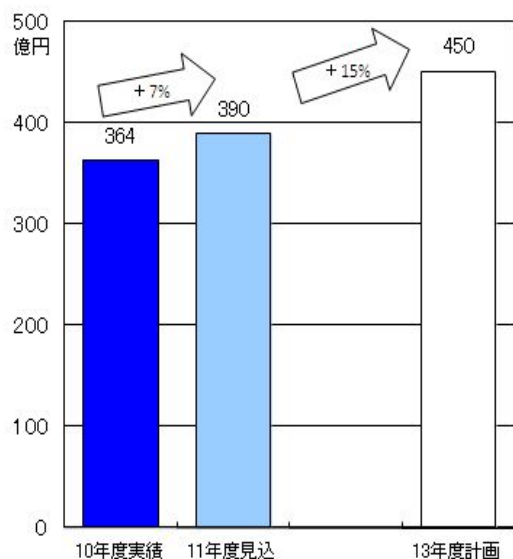
III. 業績の数値目標

2013年度の連結業績の数値目標値を、以下の通りとします。

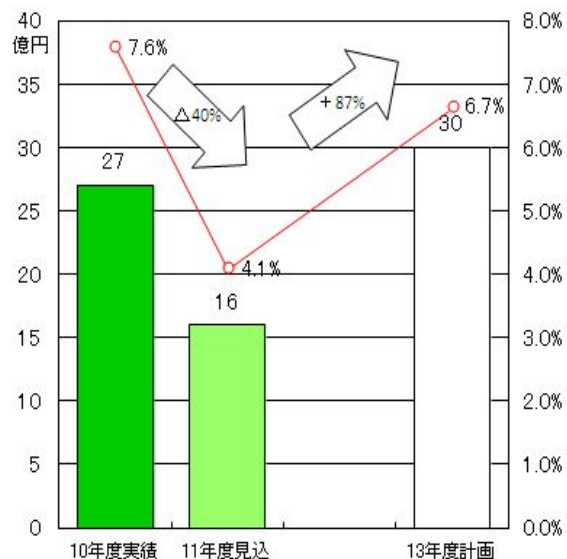
（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	営業利益率(%)
エンジン部品	31,500	1,850	5.9
機械装置	10,000	950	9.5
環境機器ほか	3,500	200	5.7
計	45,000	3,000	6.7

連結売上高の推移



連結営業利益と営業利益率の推移



IV. 財務の数値目標

2013年度末における連結ベースの財務の数値目標値を、以下の通りとします。

自己資本比率	ROE (自己資本利益率)
40%以上	12%以上

V. 利益還元の基本方針

株主の皆様への還元につきましては、長期的な経営基盤の確保に努めるとともに、安定的な配当の継続を基本方針としております。今後の利益配当につきましては、成長に必要な設備投資などの内部留保を考慮して、総合的な判断により積極的に利益還元をはかっていく所存であります。

以上